



「ネックレス」1万2390円、「レースのピアス」6090円、「クリップ」3990円など。その他、指輪やコサージュなども。値札も花びらという細部までのこだわりも、作品への愛が溢れていてファンにはうれしい



元々、レースがすごく好きで「何に使うことなく買集めていた」のがはじまり。高級な素材にこだわらず、でも1点モノっぽく見えるように工夫をこらす。誰がつくっても同じではない、「m.soeur」らしさがそこにある



「お客さんが求めている部分と自分のつくりたいものの違いを知りたくて」出店した新風館のワゴンショップ、いまの「m.soeur」の原点と言ってもいい。残念ながら、ショップは9月末で閉店。現在は下記の場所にて店舗を構えている

information

「m.soeur (エム スール)」

京都市中京区麩屋町通竹屋町上ル
舟屋町410-1
☎075-950-8580
●12:00~19:00/不定休
※展示会・催事などで数日間の休業もあり。

<http://www.m-soeur.com>

京KYOTIAN I.D.

京のおきばりさん

m.soeur デザイナー

小野映美

ONO EMI

【プロフィール】

'80年5月27日、宇治市生まれ。卒業後、アクセサリーの卸会社に就職しデザインを担当するまでに。退社後、独学で得た知識や技術を活かし、オリジナルブランド「m.soeur」を立ち上げる。'06年10月から1年間、新風館1Fでワゴンショップをオープン

パーツの組み合わせは無限大 広がる世界にココロときめく

淡い色合いのふんわりした花びらや、細かい模様のレース、光沢のあるシックなリボン。小野さんのつくり上げるアクセサリーはどれも、柔らかな存在感を持っている。クラシカルでフェミニン。それは年齢、洋の東西を問わぬ乙女の永遠の憧れであり、少女たちをより一層美しく見せてくれるアイテムでもある。

造花、ブリザーブドフラワー、木の実、レース、リボン。素材は自然な色調のものをベースとし、それらを組み合わせ生み出されるアクセサリーは、まさに無限のフェミニズムを秘めている。そこそが醍醐味。アクセサリーの最大の魅力だと小野さんは微笑む。「こんなものがアクセサリーに？」という素材を探すのも楽しい。「とてもきれいなクリスタルのドーナブを、ネックレスにできないかな？って考えたり。って、さすがにちょっと重いですよ（笑）。小さなネジだって、可愛いプレスレットになるかもしれない。まだ誰も手にしていないような素材に出会いたい。それは真摯な願い。「アンティークだとしても一点モノになってしまわないで、できるだけ安定して商品をつくらせてくれるように原料に気を使う」のは、いつでも、いつまでも提案できるものが、長く愛されると思うから。そんなブランドにしていきたい

思っている。もちろん、「いつかは本当のアンティーク素材を贅沢に使って一点モノもつくりたい」という想いもある。伝統工芸が根づく都の地は、一点豪華主義を内に秘めている。誰もが知るビッグブランドを何かひとつ身につけたがる安心感質も悪くはないが、知る人ぞ知るアイテムを取り入れるテクニクも身につけたい。それが京に住まう者の「粋」に通じるのだとしたら、一点モノは最適だ。

造花やブリザーブドフラワーも、いまはメーカーから購入して、そこにレースをつけたり、花びらを増やしたり、紅茶で染めたり...とアレンジしているが、いずれはオリジナルの花づくりに挑戦してみたい。夢は膨らむばかり。そしてそれを、「原材料に則した適正な価格で売りたい」という確固たる姿勢。服の一部として、それぞれのスタイルに馴染むようなアクセサリーを、大きくて存在感のあるものでも、ナチュラルな色で合わせやすく、彼女のデザインする作品はどれも、乙女心を巧みにとくする。それはきっと、彼女自身が「本当に好きでやめられないもの」なのだろう。自身のつくったアクセサリーを身につけて、穏やかに、けれど芯の強さを秘めて言葉紡ぐ様は、作品と同じくらい、いやそれ以上に美しい。